

パネルディスカッション1 第5回大会企画パネル  
「子どもの日本語教育における教材とICTの可能性」

体験によることばの学びの場を作る  
—教材・教具としてのICT活用の試み—

花島 健司 (港区立筭小学校)  
宇野 英理子 (港区立筭小学校)

1. 学びの場の設定の背景

コロナ禍での一斉休校や分散登校など、日本語指導が必要な児童たちの学習環境も変化を余儀なくされ、個別学習が中心となりました。限られた環境の中で児童のことばの力を伸ばすために、児童自身が主体的に取り組める学習の場を意図的に設定することが不可欠だと考えました。また本区では児童に対し一人一台のタブレット端末(iPad)が支給されました。そこでこの情報端末を生かすことで、様々な状況に置かれた児童の学びを継続し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる一歩につながるのではと試みました。

2. 学びの場を作る(「トピック型」JSLカリキュラムによる授業作り)

2.1 対象児童

都内の公立小学校に在籍し、日本語指導のための学級で通級による指導を受けている。それぞれ国籍、母語、滞日期間、日本語の力は異なっている。児童は家庭では母語による会話が中心で、日本語の獲得は学校での学習や経験が多くを担っている。

2.2 目標

- ・体験に基づいてことばの意味を理解し、使うことができるようにする。
- ・小集団による共通体験や交流を基に、ことばのやり取りを通して学び合いを実現する。
- ・情報端末を体験の記録や表現手段の補助具として活用させる。

2.3 学習計画

単元名 (ねらい)	学習活動	ICTの活用
おいしいってなに? (食べた感覚やその表現の差異を通してことばを理解させる)	・計画 ・植え付け ・世話 ・収穫	「情報の収集」 観察、実験 「記録」 写真、音声、動画など 「表現・制作」 プレゼンソフト、文章作成ソフト等の利用
畑の野菜 (栽培・調理体験を通して感じたことをことばで表現させる)	・調理 ・発表、交流	「共有・交流」 グループ発表 プレゼンテーション ポスターセッション
ワールド活動 (ルーツに関わる国を調べたり、経験したりし	・計画 ・調べる ・ポスター作成	「情報の収集」 検索ソフトの利用 インタビュー 「記録」 写真、音声、動画など

たことから考えや思いをわかりやすく伝えさせる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表 PP 作り</li> <li>・発表、交流</li> </ul>	「表現・制作」プレゼンソフト、文章作成ソフト等の利用 「共有・交流」グループ発表 プレゼンテーション ポスターセッション
-------------------------	---	---

### 3. その他の学びの場での活用

日常的な場面	ICT の活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習課題の把握、疑問の解決</li> </ul>	「情報の収集」検索ソフト、翻訳アプリの利用 語彙（言い換え、写真、動画） 翻訳（音声、文字）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童への情報伝達</li> </ul>	

遠隔教育での場面	ICT の活用
<ul style="list-style-type: none"> <li>・休校時、一時帰国待期間</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通話アプリ等を用いたオンライン学習</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワールド学習（海外・専門家との交流）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通話アプリ等を用いた交流</li> </ul>

### 4. これからの学びに向けて

児童に一人一台の iPad が配布されたのは、2020年11月頃の出来事でした。翌4月には教員に一人一台支給されました。そこから、本学級では学習の中に iPad を媒体とした ICT の活用に積極的に取り組んできました。それには2020年2月末より5月までの一斉休校、その後の分散登校など、感染拡大防止対策の中で、日本語を学ぶ子供たちの学習を継続することの難しさや、私たち自身の無力感を強く感じたことからでもありました。紙媒体での教科書や課題の配布では、日本語を母語とする児童たちでも学習は容易なものではなく、ましてや日本語を学ぶ児童には、様々な視聴覚教材などで補っても、とても十分とはいえるものではありませんでした。そしてその後のコロナ禍対応や「GIGA スクール構想」の本格化の中で、小学校の教育現場の ICT 化は急速に進みました。闇雲にすべての学びに ICT の活用を考えるのではなく、ICT を使ったほうが良い学びと、これまでも効果的であった学びをよく考えて使い分けることの大切さを実感しています。本学級での拙い実践の報告を通して皆さんと議論を深められたらと思います。

#### 【参考文献】

- 齋藤ひろみ・池上摩希子・近田由紀子編著（2015）『外国人児童生徒の学びを創る授業実践』くろしお出版
- 今井むつみ（2020）『親子で育てることば力と思考力』筑摩書房
- 文部科学省（2003）『学校教育における JSL カリキュラムの開発について（最終報告）小学校編』  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/008.htm)
- 文部科学省（2020）『GIGA スクール構想の実現へ』  
[https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt\\_syoto01-000003278\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20200625-mxt_syoto01-000003278_1.pdf)